

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の自主的な学びを促す教育課程を編成するとともに、学び直しを積極的に行う。基礎基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力を培い、生徒一人ひとりの基礎学力向上を目指す。	・毎日の授業を大切にし、学習に主体的に取り組むことのできる確かな学力を育成する。 ・授業力向上推進重点校として、基礎学力の定着から発展的な学びまでを意識した多様な取り組みを実践する。	・アクティブラーニングの手法を取り入れることにより学習意欲を引き出し、確かな学力を身に付ける取り組みを実施する。 ・基礎講座や補習を通して生徒の基礎学力の育成を図る。 ・「マルチベーシック」により基礎基本の定着を図り、検定試験を目指す学力を育成する。	・組織的な授業改善・授業研究ができたか。(生徒アンケート) ・技能審査、校外講座、ボランティア活動、インターンシップ等による単位取得が昨年度より増えたか。	・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点に立って具体的なテーマを設定し公開研究授業と研究協議を行った。 ・生徒の基礎学力と学習意欲の向上を目指し、独自の校内模擬試験を実施した。 ・就業体験活動により9名の生徒が単位を取得した。	・生徒アンケートによると、授業の工夫、話し合いは評価が高くなったが、生徒個人の学習への取り組みは変化していない。生徒の学習意欲を向上させるため、基礎学力が身についたことを実感し達成感を味わえるような工夫をする。	(学校評議員) ・授業の工夫がなされていることが生徒にも伝わっている点は評価できる。一方で、生徒の学習への取り組みに対する評価に変化が見られない点については、今後の具体的な取り組みを検討する必要がある。	・具体的なテーマを掲げた研究授業を実施し、生徒の感想をもとに教員同士で研究協議を深めることができた。 ・検定試験の合格者(英検準2級)やインターンシップによる単位取得者が増加した。 ・校内模擬試験を実施し、基礎学力を育成する機会を設けた。	・すべての教科で研究授業を行い、学校全体で授業改善に取り組む体制を整える。 ・基礎学力の定着と学習への取り組みを向上させるため、T・Tの授業を拡大するとともに、個別対応の学習の機会を増やす。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	組織的な教育相談を充実させ、個に応じた支援体制の充実を図る。基本的な生活習慣の確立と、社会人として求められる基本的なマナーの定着に努める。	・生徒一人ひとりに応じた相談体制を充実させ、安心して学べる学校づくりを進め、規範意識の高い生徒の育成を図る。	・年度当初の二者面談を筆頭に、定期的な三者面談、必要に応じた家庭訪問を実施し、家庭と学校が協力し、生徒を育む環境を整える。 ・教育相談コーディネーターを活用し、SC、SSWと連携を強め、人権相談窓口、ケース会議など、教育相談体制を充実させていくとともに、情報交換の時間を設ける。 ・落ち着いた学習環境を維持するため、巡回を強化するとともに、授業中のスマートフォン等の非操作を徹底していく。	・生徒の出席状況が良好であったか。 ・課題を有する生徒について教員間で共通認識をもって指導にあたることのできたか。 ・授業中のスマートフォン等の操作がなくなり、生徒が集中して学習に取り組むようになったか。	・卒業式では、皆勤賞1名及び精勤賞2名の表彰が行われた。 ・年度当初2者面談を行って、前年度、欠席が多かった生徒には、出席状況を改善するよう指導した。 ・授業中のスマートフォン・携帯電話を操作している生徒が減少した。	・年度当初の2者面談で、生徒の課題を把握するとともに、SC、SSWとの連携も模索していく。 ・スマートフォン・携帯電話の非使用を徹底し、授業に集中できる環境を整えていく。	(学校評議員) ・定時制での遅い時間まで学校で学習をできる。 ・学習に集中できる環境が整ったので、さらに、自ら学んでいく能力を伸ばしていく必要がある。	・皆勤賞や精勤賞を取るような生徒が定時制から出るようになったことは、評価できるが、その反面、欠席が多く、進級できなかった生徒がいた。 ・授業中のスマートフォン・携帯電話の操作をしている生徒はほとんどいなくなったが、引き続き、落ち着いて授業に取り組める環境を維持していく必要がある。	・面談や授業観察を通じて、生徒の状況を把握するとともに、長期間欠席が続いている生徒には、SCやSSWと連携し、登校できる環境を整えていく。 ・集中して授業に取り組む姿勢を保つために、巡回を強化していく。
3 進路指導・支援	入学時から卒業後を見据えた体系的なキャリア教育を策定し、生徒が社会的・職業的に自立した能力を身につけ、自らの将来を自主的、主体的に考えることのできる姿勢を育む。	・自分の将来について自主的・主体的に考えられる能力や資質を育成する。 ・学校行事・部活動・ボランティア活動等を通して自主的・主体的に取り組む力を育む。	・ハローワーク、西部総合職業技術校等の外部機関と連携し、生徒の職業観・勤労観を養い、主体的に進路を選択する能力・態度を育む。 ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等及び定通振興会の諸行事に積極的に参加させ、自己理解や人間関係の形成に必要な力を身につけさせる。	・外部機関との連携により、生徒が自らの進路を考え、積極的に進路実現に向けて行動できたか。 ・諸行事、諸活動への参加人数が昨年度に比べ向上したか。	・分野別体験型キャリア講演会やハローワークによる就職ガイダンス等を通して進路について深く考える機会とした。 ・就業体験活動への参加者が増加し、活動を通して充実した成果を得た。	・キャリア教育を継続的に行い、内容を深めていくための指導計画を再検討する。 ・学校行事等の内容の見直しと、実施目的に沿った効果的な実施時期を検討する。	(学校評議員) ・進路実現に向けた取り組みを計画的に実施し、進路について考える学習を継続的に行った。 ・体育祭等の学校行事に、生徒は意欲的に取り組んでいる。	・外部機関との連携により、進路について具体的に考える機会を設けることができた。 ・行事に参加する生徒は意欲的に取り組んでいるが、全く参加しない生徒もいるので、どのように参加を促すのが検討が必要である。	・キャリア教育の具体的な指導計画を見直し、生徒が自分の生き方を意識しながら進路に向けて取り組めるような工夫をする。 ・行事への参加者が増えるように、内容の見直しや行事の精選を検討する。

4	地域等との協働	<p>学校へ行こう週間や地域との交流行事を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域の教育力を活用するとともに、地域連携を推進し豊かな人間性と社会性の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の活動を地域に広報し、地域の方々の理解を得ながら地域貢献活動等を実施する。</li> <li>・学校説明会や「学校へ行こう週間」、またHPの内容等の充実を図ることにより学校の情報を広く地域に提供し、開かれた学校づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と協働・連携をすることにより、地域貢献活動の意義を深めることができたか。</li> <li>・HPなどによる学校の適切な情報提供により、中学生や保護者、地域の方々の本校に対する理解が深まったか。（参加者アンケート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺および通学路の清掃を行い、活動中に地域の方から感謝の言葉をいただいた。</li> <li>・学校説明会で実施したアンケートでは、学校について理解が深まったとの結果を得た。また、理解する手段として、学校のHPが活用されていることも分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動の有効な実施時期や、清掃活動以外で地域貢献できることはないかを具体的に検討する。</li> <li>・生徒の諸活動の様子を広く地域に知ってもらうために、学校行事や学校説明会の機会を利用して取り組む。</li> </ul>	<p>（学校評議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動（清掃活動）が定着し、地域住民も学校活動への理解を深めている。あいさつも進んでできるような指導を行っている点が評価できる。</li> <li>・学校説明会での説明が分かりやすく、学校の様子について理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路や地域の清掃活動を通して、学校と地域が協力し合っていることの意義を考えることができた。</li> <li>・研究授業や「学校へ行こう週間」などの機会を利用して、生徒の様子を見てもらった。また、学校見学を希望する団体や個人にも随時、対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動以外に、地域に貢献できる活動を具体的に検討し、実施する。</li> <li>・学校の様子を知ってもらう機会を行事等も含めて検討し、地域の方々や小学校・中学校との具体的な連携を行う。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<p>組織的なチェック体制を整え、職員の規範意識の向上と事故防止に努める。</p> <p>防災教育を行い、職員、生徒ともに防災に対する知識を高め、防災に対する意識の醸成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。</li> <li>・地域と連携し、校内の防災対策や災害時の体制整備を一層強化し、生徒の防災意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な事故防止会議、組織的なチェック体制により、会計や成績処理に関する事故防止に努める。</li> <li>・防災マニュアルの検証を継続し、災害時の体制整備をより強化する。</li> <li>・防災委員を中心とし、DIG 訓練等の防災教育を実施する。</li> <li>・地域や自治体と連携、協働した防災訓練を策定し、実施する。</li> <li>・校内の防災施設を整え、水・乾パン等防災用品の3日分の備蓄を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止会議及び会計担当者会議を定期的開催し、事故・不祥事の防止を喚起できたか。</li> <li>・学校周りの危険箇所を想定し、災害に対する意識が高められたか。</li> <li>・自治体・自治会と防災計画を確認し、自治会等と連携した防災訓練ができたか。（教職員・生徒・参加者アンケート）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画会議や職員会議が開催される度に、事故・不祥事防止研修会を実施し、事故・不祥事防止に努めた。</li> <li>・自治体・自治会と防災計画を確認し、自治体等と連携した防災訓練を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画会議、職員会議で事故・不祥事防止研修会を実施し、事故・不祥事防止に努めていく。</li> <li>・引き続き自治体・自治会との連携をさらに密にしていく。</li> </ul>	<p>（学校評議員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会でも防災訓練を実施しているが、人の入れ代わりが激しく定着しにくい状況がある。学校での防災訓練を自治会内での防災意識や技能の向上の機会とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。</li> <li>・自治会と連携して防災訓練ができ、顔がちな関係ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教職員の意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。</li> <li>・災害発生時にスムーズな連携ができるように合同で防災訓練等を実施し、自治会との結びつきを強化する。</li> </ul>